

小金井市のゴミ処理問題の現状と課題

2013年2月16日(土)
日本共産党・板倉真也

ごみ問題をいかに打開するか

2012年度のごみの焼却先

昨年度(2011年度)の燃やすゴミ量は 13,290.8トン — 家庭系 12,580.4トン
事業系 710.4トン

■ 4箇所に依頼/合計 13,300トン

8,000トン 多摩川衛生組合(稲城市・狛江市・府中市・国立市で構成)	1,500トン 三鷹市	2,000トン 日野市	1,800トン 昭島市
2012年4月2日～2013年3月31日 (処理委託料 48,000円/トン)			
2012年4月9日～11月30日 (処理委託料 42,000円/トン)			
2012年6月1日～2013年3月31日 (処理委託料 48,000円/トン)			
2012年7月2日～2013年3月31日 (処理委託料 48,000円/トン)			

■ 調布市・府中市が「二枚橋ダメ」には理由がある。1989年7月に「二枚橋断念」を3市とも確認済み

「二枚橋焼却場」にかかわるこの間の経過

- 1958年4月 小金井市・調布市・府中市共同で二枚橋焼却場の稼働開始
- 1984年2月 老朽化に伴う建替えの基本計画発表
- 1985年2月 小金井市議会が「建替えは第2工場と同時にすべき」と決議(いわゆる「第2工場論」)
- 1989年7月 東京都が都立野川公園への移転案を提示。その後、地域住民の反対で頓挫。そのことから「二枚橋」での建て替えを断念し、各自治体が新たな処理先を確保することで事態打開をはかることとなった
- 1992年6月 施設延命化の工事開始
- 1993年4月 府中市が多摩川衛生組合に加入
- 1999年8月 調布市が三鷹市と共同で新焼却施設建設の覚書を締結(2013年度完成)
- 2004年5月 小金井市が国分寺市に、将来の焼却施設の建設を含めて共同処理を申入れ
- 2004年11月 三鷹市の焼却施設で、調布市が三鷹市と共同処理開始
- 2007年3月 調布市議会が「小金井市が二枚橋跡地に焼却場を建設することは到底容認できず信義に反する」と決議
- 2007年3月 二枚橋焼却場の運転停止・焼却場廃止へ。財産は、小金井・調布・府中で3分の1ずつとすることで決定
- 2007年4月 小金井市のゴミを多摩地域の焼却施設で処理開始
- 2008年6月 小金井市の市民検討委員会が、国分寺市と小金井市の新焼却施設建設場所に「二枚橋」を答申
- 2008年8月 調布市が「調布市域に、2箇所の焼却場は必要ない」「二枚橋の調布市の配分区域(3分の1)には、焼却炉の建設は認められない」と表明
- 2010年3月 小金井市が、国分寺市と小金井市の新焼却施設の建設場所を「二枚橋」とすることを決定。しかし、調布市・府中市の合意は得ないまま
- 2011年3月 小金井市が「第4次長期基本構想」発表。「他団体と共同で、長期にわたる安定的なゴミ処理体制の確立に努めます」を明記。「第3次長期基本構想」の「新たな地方公共団体と」の文言がなくなる
- 2011年4月 佐藤和雄市長が「ゴミ処理 4年間で20億円 ムダ使い」を掲げて当選
- 2011年11月 佐藤和雄市長が「ゴミ処理 4年間で20億円 ムダ使い」でゴミ処理が危うくなる事態をつくり出し、辞職
- 2011年12月 稲葉孝彦氏が市長に返り咲く。ゴミ処理問題では「一部事務組合への加入も含め、あらゆる方策を検討し、平成24年度末までに実現可能な方針を示す」を選挙公約に掲げる
- 2012年2月 調布市長は稲葉市長に対し、二枚橋跡地の調布市区域(約 3,700㎡)に、クリーンセンター機能を持つ施設を建設する考えを表明
- 2012年2月 稲葉孝彦市長が施政方針の質疑の中で「二枚橋跡地は極めて厳しい状況になった」と答弁
- 2012年3月 稲葉孝彦市長は市議会特別委員会で「国分寺市長に対して、焼却場を小金井市内で見つけることは困難であると伝えた」と報告

二枚橋焼却場跡地の市域

総面積	11,502㎡
小金井市地域	4,199㎡
調布市地域	5,307㎡
府中市地域	1,996㎡

二枚橋跡地の財産分割

総面積	11,502㎡
小金井市	約 3,700㎡
調布市	約 3,700㎡
府中市	約 3,700㎡

「二枚橋」からの方針転換こそ必要

■ 変化した小金井市の基本方針

◎ 第3次基本構想・後期基本計画(2006年度～2010年度)

「老朽化した二枚橋焼却場での処理を中止し、新たな地方公共団体と可燃ゴミの共同処理体制への移行をめざします」

◎第4次基本構想・前期基本計画(2011年度～2015年度)

「将来にわたり安全で安定的なゴミ処理を行なうため、東京都および関係団体と連携し、可燃ゴミの処理体制の確立を図ります」(施策の大綱)

「他団体と可燃ゴミの共同処理を行なうことを目指し、一部事務組合の設立などを目指します」「他団体と共同で、長期にわたる安定的なゴミ処理体制の確立に努めます」(主な取り組み)

[解説]

2011年3月に策定された「第4次長期基本構想」は、国分寺市との「共同処理」を念頭におきつつも、新たな方策についても追求する記述になった。

■「二枚橋」に固執するかぎり、打開策は見いだせない

「二枚橋」に建てるためには、調布市区域・府中市区域の敷地(各3,700㎡)を借りるか買うかしなければならない。なのに落選する前の稲葉市政も辞任した佐藤市政も、焼却・非焼却とにかかわらず、「二枚橋」での処理施設を前提としていた。しかし「二枚橋」は過去の経過から、調布市は頑として首を縦に振らないことはわかっていたこと。だから日本共産党は、市民検討委員会が「二枚橋に建てるべき」と答申した際にも、「二枚橋」への建設は「期限を区切って、調布市・府中市と交渉を」と要求。しかし、行政側も共産党以外の議会側も「二枚橋」に固執し、出口の見えない暗闇のなかに浸っていた。「二枚橋」からの脱却こそが、新たな方策を探し出すキッカケとなる。

そのことを行政側も議会側も理解しはじめたのが、2011年3月策定の「第4次基本構想」。ゴミ処理の項目では、第3次基本構想に明記されていた「新たな地方公共団体と可燃ゴミの共同処理体制への移行をめざします」から、「他団体と共同で、長期にわたる安定的なゴミ処理体制の確立に努めます」へと変化。「新たな地方公共団体」が「他団体と共同で」に変わった。

■既存の焼却施設の仲間入りこそ現実的

では、日本共産党はどうすべきと考えているのか?。「二枚橋」は新聞報道でも「絵に描いた餅」と評され、実現不可能な事態となっている。では、2009年3月の市議選で日本共産党市議団が提案した「都立公園」はどうか?。当時は、小金井市内に国分寺市との焼却施設をつくるのが「小金井市のゴミを多摩地域の焼却施設で処理する」ことと条件とされていたため、市議団は「都立公園」案を打ち出した。しかし、今日の状況は「二枚橋」は「絵に描いた餅」とマスコミが評し、「都立公園」も東京都が首を縦に振らないと実現できない。しかもハードルはきわめて高い。ではどうするのか?

新たに建てるのではなく、既存の焼却施設の仲間入りをすべきと考える。すでに稼働している他市の焼却施設に仲間入りをさせてもらい、入会金と毎年の分担金を支払って、構成団体の一員になるということ。そのほうが、財政負担を減らすことができるし、新たに建てることよりは実現性が高いと考えられる。もちろん、実現するまでには地元住民や議会の合意が必要となるので、一足飛びとはならない。時間はかかると思われるが、粘り強く求めていく以外にない。一部には、調布市に粘り強く交渉すべきとの意見もあるが、調布市も地元の市民を抱えており、小金井市の思うようにコトがすすむものではない。第一、調布市は自分の敷地(約3,700㎡)にクリーンセンター機能を持つ施設の建設を予定しており、「二枚橋」に固執するかぎり、先は見えない。よって今日では、市議会のなかで「二枚橋」に固執する議員はいなくなった。

ここにきて新たな動きが

■日野市長が「共同処理」の意向表明

11月30日、日野市長が日野市議会で報告。「日野市のクリーンセンター可燃ごみ処理施設の建て替えにあたっては、国分寺市・小金井市との共同化を行なう」「11月13日にクリーンセンター地元の環境対策委員会、周辺自治会への説明を行ない、今後も共同化への理解をいただけるよう説明を続けていく」。この報告を、小金井市も小金井市議会も受け止め、日野市の今後の状況を見守ることとした。

■小金井市が「二枚橋跡地」の府中市分の取得を検討したいと発言

1月24日の小金井市議会ごみ処理施設建設等調査特別委員会で突然、副市長が「二枚橋焼却場跡地の府中市分(約3,700㎡)の取得を検討したい」と答弁した。しかし、取得して何に使うのかは明らかにしていない。1月31日の2月定例市議会では「なぜ買うのか」との質問に対して、「今までの進め方と変わっていない。二枚橋焼却場用地を使わせていただくということできている。当然、府中市の土地を買うことになる」と、稲葉市長が言明した。府中市分を取得しても、ゴミ処理施設としては狭い。いったい何のために買うというのか。謎である。

なお、二枚橋焼却場跡地は現在、建物がすべて取り壊され、更地整備の最終段階に入っている。完了後は総面積11,502㎡の周囲を、高さ1.5mの金網フェンスで囲うことになる。今年の3月末に全工程完了予定。

いずれにしても、ごみ減量が必要

■他市への持ち込み量の減量を

小金井市は自前の焼却施設を持ってはいない。だから、他の施設にお願いせざるをえない立場。よって、少しでも持ち込むごみ量を減らすことが、せめてもの償い。日本共産党市議団は、小金井市の事業として、生ごみの分別回収を行ない、生ごみの堆肥化事業を行なうべきと提案している。加えて、生ごみ以外の燃やすごみは徹底的に分別・リサイクルを行ない、他市の焼却施設への持ち込み量を極力減らすべきと提案している。ちなみに、2009年度の小金井市民の一人あたりの燃やすゴミ排出量は、全国で1番目の少なさ。なお、2010年度は静岡県掛川市に抜かれて2位となった。